

ごうどひとめぐり

理想の一輪を求めて

日比野 義昭さん (中沢)

クリスマスローズという花をご存知でしょうか。東ヨーロッパ原産で、日本には明治期に持ち込まれました。寒い時期に花をつけるため重宝され、当時は名家の庭に植えられることが多かったそうです。一般に流通し始めたのは今から20年ほど前。それと同時期に一部の生産者が品種改良を始め、様々な姿のクリスマスローズが生まれました。日比野義昭さん(中沢)も、その美しさに魅了され、生産を続ける一人です。

日比野さんが植物を育て始めたのは、小学生の時にお祭りで購入したサボテンがきっかけ。以来、エビネ、ウチョウランなど様々な花を育ててきました。20年ほど前に展示会でクリスマスローズに出会ってからは、その美しさにははれ込み、現在農場では1万本以上を育てています。評判を聞きつけて日比野さんを訪ねる方も多く、数年前には可児市にある「ぎふワールド・ローズガーデン」(旧:花フェスタ



記念公園)にもクリスマスローズを提供しています。

クリスマスローズの魅力は、交配により多様に変化すること。花卉の色・数ともに、花ごとに別種かのように幅があり、同じ花から採れた種でも特徴が異なります。思い通りのものを作り出すのは困難を極め、自分の好みの一輪を探し求める愛好家も多いことから「魔性の花」と呼ばれているそうです。

日比野さんも20年以上の経験からある程度の傾向は掴めてきたと言いますが、自分の目にかなう花は数百本に一つ程。「こんな花が咲くんじゃないか、と考えながら交配をしていますが、その想像を超えた花が咲いた時が一番嬉しいです」とのこと。種を撒いてから花をつけるまでにおおよそ3~4年かかり、交配の結果が分かるのは数年後。「時間をかけた分、愛着がわいてしまう。お気に入りの花を処分できず、どんどん増えてしまう事が悩みです」と笑います。

市場でよく売れるのはパステルカラーのものですが、日比野さんが現在目指しているのは、真っ赤なクリスマスローズ。ピンクや紫に近いものはありますが、本当に赤いものは見たことが無いそうです。「クリスマスローズを育てるのは、自分のライフワーク。消費者に喜ばれるものと、自分のロマンの両方を追い求めたいと思っています」と話してくれました。



▲交配作業の様子



▲開花したクリスマスローズ

戸籍の窓

2月1日~2月28日までの受付分
 (届出順・敬称略)
 希望者のみ掲載しています

人の動き

令和5年3月1日現在

人口 … 18,548人 (- 10)
 男 … 9,067人 (+ 6)
 女 … 9,481人 (- 16)
 世帯数 … 7,196世帯 (+ 9)

※()内は前月との比較



お誕生おめでとうございます

区名	お子さんのお名前 (ふりがな)	親さんのお名前
昭和町	雙松 永羽 (とわ)	・大 介, 美 絵
宮 町	林 昂一郎 (こういちろう)	・兼太郎, 祐 子
田	桑原 貫 (かん)	・ 崇 , 悠
	絃 (げん)	



心からお悔やみ申し上げます

西座倉	石 原 武 (78歳)
横 井	高 崎 眞 一 (87歳)
幸 町	木 村 實 男 (75歳)
八 条	馬 淵 峯 生 (87歳)
丈六道	土 屋 孝 雄 (96歳)
清水町	川 合 利 江 (82歳)
下 宮	飯 沼 茂 子 (72歳)
南 方	清 水 ハスエ (88歳)
和 泉	大 場 勝 巳 (53歳)
幸 町	杉 岡 淑 子 (89歳)
加 納	小 寺 早 苗 (72歳)
南 方	守 岡 すみ子 (89歳)
西座倉	安 田 保 一 (91歳)
川 西	杉 岡 茂 彦 (91歳)



ご結婚おめでとうございます

峰之井	いんあゆ、りすやんた	♥	ヤサマオエリ、マミ
昭和町	吉 村 奎 佑	♥	筧 優里奈
加 納	下 野 凌 也	♥	森 田 真 央

